

大阪市立鯨江東小学校 平成28年度 運営に関する計画・自己評価（総括シート）

学校教育目標	仲良く 強く 正しい子どもの育成を図る
目ざす子ども像	<ul style="list-style-type: none"> ・ 仲良く 違いを認め合う子ども・異文化を尊重する子ども ・ 強く 自分の責任で選択し、判断し、表現する子ども ・ 正しく 正義を愛する子ども
目ざす学校像	<ul style="list-style-type: none"> ・ 子どもも教職員もいきいきと活動する学校 ・ 学びにふさわしい環境の整った学校 ・ 筋の通った秩序のある学校 ・ 指導力を高める研修・研究活動の活発な学校 ・ 尊敬と信頼のある穏やかな温かい学校

1 学校運営の中期目標

現状と課題

全国学力・学習状況調査より

- 平均正答率は、全教科で大阪市・全国を下回っている。国語と理科は、大阪市の平均正答率との差が2ポイント以内だが、算数はA・B問題ともに差が大きい。正答率の分布は、全教科で2極化の傾向が認められる。とくに下位層は幅広く分布し、人数も多い。無回答率は、国語B・算数で大阪市・全国の平均値を下回り、国語A・理科もわずかな差である。
- 意識調査では各設問に対して「当てはまる」と積極的な回答をしている児童の割合の低い項目が多く、学習に対する自信のなさが窺える。とくに、論理的な言語活動に関する意識の面で、肯定的な回答の割合が低い。読書が好きな児童の割合も低い。
- 学習規律や家庭学習の習慣は身についてきている。しかし、家庭での生活は、学習時間・テレビ等でゲームの両項目で、多くの時間を使っている児童が多い。過ごし方が二つに分かれているように思われる。
- 規範意識は肯定的な回答が大阪市を上回り、全国とほぼ同じ割合であることから、数年来の取り組みの成果があらわれてきている。一方、自尊感情は肯定的な回答が大阪市・全国を大きく下回っている。学習と同様、自信のなさが影響していると思う。

学習理解度到達診断（4教科のしんだん）より

- どの学年にも、2極化の傾向が認められる。また、下位層は幅広く分布している。
- 大阪市抽出校の平均正答率を上回っている教科・下回っている教科が全学年で認められる。

全国体力・運動能力、運動習慣等調査より

- 男女とも、総合評価A・Bの割合は全国を上回る。Eの割合は低く、女子は一人もいない。総合的な運動能力は良好である。
- 大阪市・全国平均を上回っている種目：握力・シャトルラン・立ち幅跳び・上体起こし（男子）・反復横跳び（女子）・50m走（男子）・
- 大阪市・全国平均を下回っている種目：長座体前屈・ソフトボール投げ・50m走（女子）
- 柔軟性に課題が認められる。
- 運動に関する意識は、男女ともに否定的な回答が目立つ。運動することが嫌い・苦手と思っている児童が、全国・大阪市を上回っている。日常生活についても、男女とも否定的な回答の割合が高く、スポーツに親しんでいると思われる児童は少ない。

中期目標

【視点 学力の向上】

- 平成 28 年度の大阪市小学校学力経年調査の平均正答率において、大阪市平均を上回るとともに、平成 29 年度の全国学力・学習状況調査の平均正答率を全国平均と同程度にする。
(カリキュラム改革関連)
- 平成 28 年度末の本校の学校生活アンケート調査で国語・算数の「授業の内容がわかる」と回答する児童の割合を 60 %以上にする。
(カリキュラム改革関連)
- 平成 28 年度末の本校の保護者アンケート調査で「学力を定着させるような授業が行われている」と回答する保護者の割合を全学年で 50 %以上にする。
(マネジメント改革関連)

【視点 道徳心・社会性の育成】

- 平成 28 年度の本校の学校生活アンケート調査で、自尊感情や規範意識に関連する次の各項目について「当てはまる」と回答する児童の割合を平成 24 年度より 5 ポイント以上増加させる。
 - ・ 自分にはよいところがある。
 - ・ 宿題や勉強道具を忘れずに持ってきてている。
 - ・ きまりや約束事を守っている。
 - ・ 進んであいさつをしている。
(カリキュラム改革関連)
- 平成 28 年度末の本校の保護者アンケート調査で「集団意識を高めるとともに、豊かな心を持った子どもを育てようとしている」と回答する保護者の割合を全学年で 50 %以上にする。
(マネジメント改革関連)
- 平成 28 年度末の本校の学校生活アンケート調査で、「災害や事故・事件などから身を守るためにどのように行動したらよいかを知っている」で肯定的な回答をする児童の割合が 90 %以上を維持する。
(カリキュラム改革関連)

【視点 健康・体力の保持増進】

- 平成 28 年度末の学校生活アンケート調査で健康に関する項目について、「(どちらかといえば) 当てはまる」と答える児童の割合が 80 %以上を維持する。
(カリキュラム改革関連)
- 平成 28 年度末の学校生活アンケート調査で「運動することが好き」の項目について「当てはまる」と答える児童の割合を 70 %以上、「どちらかといえば当てはまる」と答える児童を合わせて 90 %以上にする。
(カリキュラム改革関連)
- 平成 28 年度の体力テストにおいて、特に課題のある長座体前屈とソフトボール投げの記録で大阪市平均を上回る。
(カリキュラム改革関連)

2 中期目標の達成に向けた年度目標

【視点 学力の向上】

- ① 本年度の大阪市小学校学力経年調査において、2 極化傾向の改善を図る。
(カリキュラム改革関連)
- ② 理由づけをして意見を述べたり書いたりできる児童の割合を 50 %以上にする。
(カリキュラム改革関連)
- ③ 本年度末の本校の学校生活アンケート調査で、国語・算数の授業の内容が「わかる」と回答する児童を昨年度より増加させる。
(カリキュラム改革関連)

- ④ 本年度末の本校の保護者アンケート調査で「学力を定着させるような授業が行われている」と回答する保護者の割合を昨年度より向上させる。 (マネジメント改革関連)
- ⑤ 大阪市小学校学力経年調査で、「読むこと」「書くこと」領域の平均正答率で全学年大阪市平均を上回る。 (カリキュラム改革関連)

【視点 道徳心・社会性の育成】

- ① 本年度末の本校の学校生活アンケート調査で、自尊感情や規範意識に関連する次の各項目について「当てはまる」と回答する児童の割合を前年度より増加させる。
- ・ 自分にはよいところがある。
 - ・ 宿題や勉強道具を忘れずに持ってきてている。
 - ・ きまりや約束事を守っている。
 - ・ あいさつをしている。
- (カリキュラム改革関連)
- ② 本年度末の本校の保護者アンケート調査で「集団意識を高めるとともに、豊かな心を持った子どもを育てようとしている」と回答する保護者の割合を前年度より増加させる。 (マネジメント改革関連)
- ③ 本年度末の本校の学校生活アンケート調査で、「災害や事故・事件などから身を守るためにどのように行動したらよいかを知っている」と回答する児童の割合を75%以上にする。 (カリキュラム改革関連)

【視点 健康・体力の保持増進】

- ① 本年度末の本校の学校生活アンケート調査で健康に関する項目について、「(どちらかといえば) 当てはまる」と答える児童の割合を前年度と同程度以上にする。 (カリキュラム改革関連)
- ② 本年度末の本校の学校生活アンケート調査で「運動することが好き」の項目について「当てはまる」と答える児童の割合を70%以上、「どちらかといえば当てはまる」を合わせた肯定的な回答の児童の割合を90%以上にする。 (カリキュラム改革関連)
- ③ 本年度の体力テストにおいて、特に課題のある長座体前屈の記録で前年度より上回る。 (カリキュラム改革関連)

3 本年度の自己評価結果の総括

学校教育目標ならびにめざす子ども像・学校像をもとに「運営に関する計画」を策定し、学校運営に取り組んだ。年度目標の達成に向けた取り組み内容と指標を設定することで方向性を具体化し、教職員の共通理解を図ることができた。客観的な評価をめざし、指標の工夫・改善に継続して取り組んでいる。意識調査は他の要因に左右されることがあるので、客観性を高めるために複数の調査データを併用している項目もあるが、評価が分かれることがある。今後の検討課題とする。また、前年度よりよい数値を目標にするだけでなく、良好な項目については現状を維持していくことも本年度より指標として取り入れている。

視点ごとの総括は次の以下のとおりである。

○ 学力の向上

- ・ 教職員一丸となって研究・研修に取り組み、十分な成果をあげることができた。
- ・ 年間計画や組織的な取り組みにより、習熟度別少人数授業や特別支援教育を充実させることができた。児童一人一人にあった学習指導が行われている。

- ・ 大阪市小学校経年学力調査では、国語と算数の平均正答率は、全学年大阪市の平均値と同じか上回っていた。また、国語科「読むこと」・「書くこと」領域の平均正答率も、全学年大阪市の平均値を上回っていたので、年度目標を達成することができた。
- ・ 平均正答率の分布は、教科や学年差が認められる。国語に比べて算数はひろく分布している。低学年層が10%を超える学年もある。単元テスト・漢字や計算など小テストの正答率の分布、視写の速度の調査結果などでは、基礎的な学力の定着や2極化傾向が緩和されているように思うが、定着するまでには至っていない。
- ・ 学習ノートやワークシートの記述から、学習のめあてをとらえた意見を書いている児童は半数を超えていた。また、理由づけして記述できる児童も半数に達しているが、発展的な記述を書くことに苦手意識をもっている児童がいるので、継続した取り組みが必要である。
- ・ 児童アンケートでは、指標とした前期と後期の比較では、国語は2ポイント上回り、算数は1ポイント下回ったが、昨年度後期よりは上回っている。なお、肯定的な回答は前後期ともに90%を超えていた。
- ・ 保護者アンケートでは、学力の定着についての肯定的な回答は2ポイント減り、約92%であった。とくに「できている」という回答は昨年度後期より約10ポイント減り、約33%で、昨年度前期とほぼ同じである。昨年度後期の取り組みを再度検討し、来年度の指導にいかしたい。

○ 道徳心・社会性の育成

- ・ 計画した取り組みや行事は、すべて実施できた。
- ・ 自尊感情や規範意識に関する項目は、指標とした4項目のうち、4項目すべてで肯定的な回答が昨年度を上回った。生活強調週間のチェックカードの集計でも、できた割合は年間を通して90%を超えていたので、意識は定着してきていると考える。
- ・ 保護者アンケートで「集団意識を高めるとともに、豊かな心を持った子どもを育てようとしている」に対して、肯定的な回答は昨年度より約2ポイント(97.3%→95.2%)減った。その内「できている」が約7ポイント(40.9%→34.0%)減っており、丁寧な見直しが必要である。
- ・ 地域・PTA・関係機関と連携し、防災・安全教育は確実に実施できた。毎年の積み重ねで意識化を図ることもできており、児童の意識も「災害や事故・事件などから身を守るためにどのように行動したらよいかを知っている」に対して肯定的な回答は約97%に達している。その内「知っている」と回答している児童の割合も約76%で年度目標を達成できている。

○ 健康・体力の保持・増進

- ・ 健康的な生活習慣は、ハンカチ・ティッシュの携帯と手洗いに焦点化した取り組みを継続した。健康週間のがんばりカードでは、手洗いに関して3項目の観点を設定した。給食前とトイレの後は高い達成率であった。年度末の学校生活アンケートで肯定的な回答は、約85~95%で良好である。ただし、「はい」と回答している児童の割合が減っている項目もある。食育も同様、栄養教諭による指導を日々の給食指導等で生かすことができた。ただし、朝食については、肯定的な回答が約96%で、昨年度より約2ポイント増えている。食べていない児童がわずかにいるので、家庭への啓発が必要である。

- ・ 「運動することが好き」に関しては、学校生活アンケート調査結果では、「好き」と回答している児童も、肯定的答の割合も、年度目標とする数値を3ポイント程度下回った。また、「きらい」と回答している児童の割合は、昨年度よりわずかではあるが減っている。外遊びに関しては肯定的な回答は約77%で昨年度より約4ポイント減っているので、取り組みを継続する。なお、学年差が大きいのも課題の一つである。
- ・ 体育的活動は、体育科授業の充実と地域・PTAとの連携により、設定した指標に関しては成果をあげることができた。
- ・ 体力テストの結果は、男子は半数の4種目で全国・大阪市の平均値を上回り、女子は6種目で全国・大阪市の平均値を上回っているので、概ね良好である。課題とする長座体前屈でも全国・大阪市の平均値を上回り、継続した取り組みの成果である。一方、ソフトボール投げは男女とも全国・大阪市の平均値を下回り、投げる力に課題が残った。